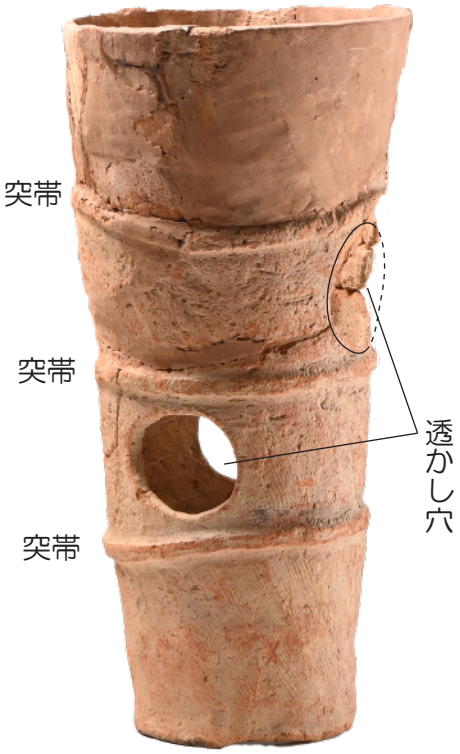


図１　円筒埴輪（大亀古墳出土）

興二於是時一也。◎是歳、興二屯倉于來目邑一。屯倉、此云二彌夜氣一。
廿八年冬十月丙寅朔庚午、天皇母弟倭彦命薨。〇十一月丙申朔丁酉、葬二倭彦命于
身狹桃花鳥坂一。於是、集二近習者一、悉生而埋二立於陵域一。數レ日不レ死、晝夜泣吟。遂
死而爛臭之。犬烏聚噉焉。天皇聞二此泣吟之聲一、心有二悲傷一。詔二群卿一曰、夫以二生
所レ愛、令レ殉二亡者一、是甚傷矣。其雖二古風一之、非レ良何從。自レ今以後、議之止レ殉。
卅年春正月己未朔甲子、天皇詔二五十瓊敷命・大足彦尊一曰、汝等各言二情願之物一也。
兄王諮、欲レ得二弓矢一。弟王諮、欲レ得二皇位一。於是、天皇詔之曰、各宜レ隨レ情。則弓
矢賜二五十瓊敷命一。仍詔二大足彦尊一曰、汝必繼二朕位一。
卅二年秋七月甲戌朔己卯、皇后日葉酢媛命一云、日葉酢根命也。薨。臨葬有レ日焉。天皇詔二群
卿一曰、從レ死之道、前知二不可一。今此行之葬、奈之爲何。於是、野見宿禰進曰、夫君
王陵墓、埋二立生人一、是不良也。豈得レ傳二後葉一乎。願今將議二便事一而奏之。則遣二
使者一、喚二上出雲國之土部壹佰人一、自領二土部等一、取レ埴以造二作人・馬及種々物形一、
獻二于天皇一曰、自レ今以後、以二是土物一更二易生人一、樹二於陵墓一、爲二後葉之法則一。↓
天皇、於是、大喜之、詔二野見宿禰一曰、汝之便議、寔治二朕心一。則其土物、始立二于
日葉酢媛命之墓一。仍號二是土物一謂二埴輪一。亦名二立物一也。仍下レ令曰、自レ今以後、
陵墓必樹二是土物一、無二傷人一焉。天皇厚賞二野見宿禰之功一、亦賜二鍛地一。卽任二土部
職一。因改二本姓一、謂二土部臣一。是土部連等、主二天皇喪葬一之緣也。所謂野見宿禰、是
土部連等之始祖也。

図２　『日本書紀』　垂仁天皇　28 年 10 月から 32 年 7 月
（坂本 1967）

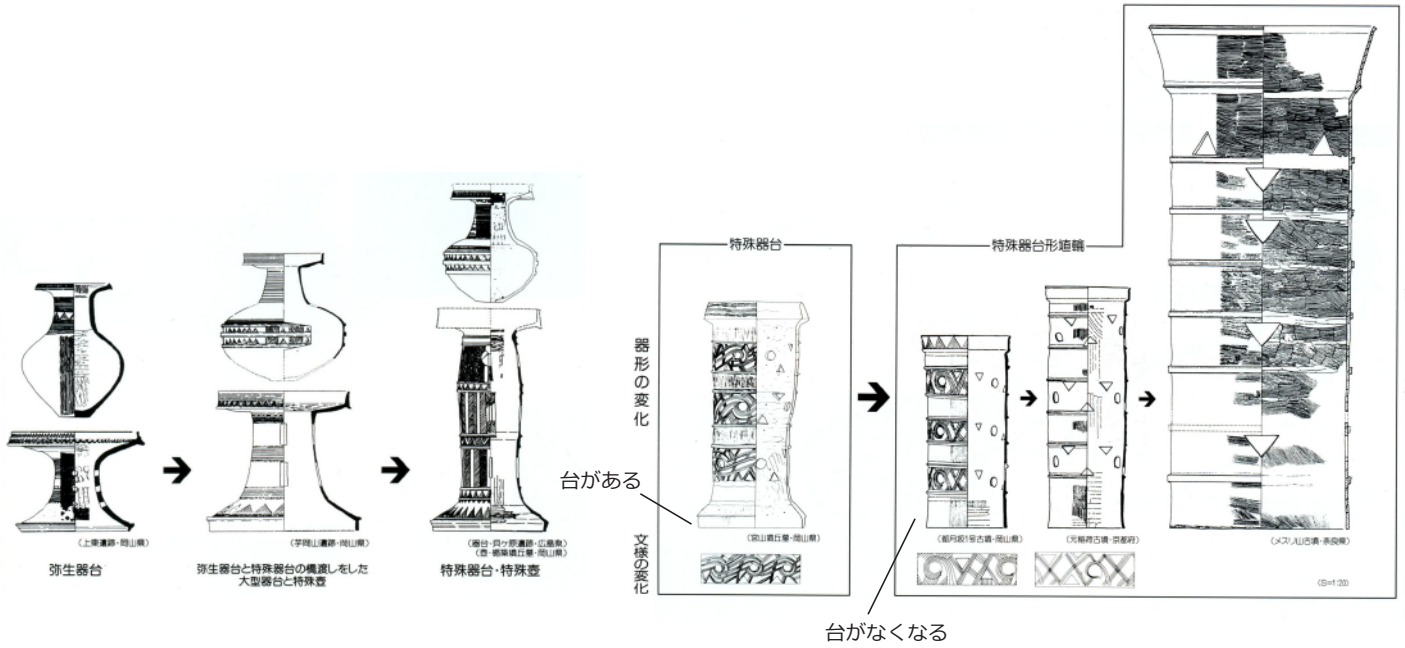


図３　弥生土器器台から特殊器台型埴輪への変遷（広島県立歴史民俗資料館 1995 を加筆改変）

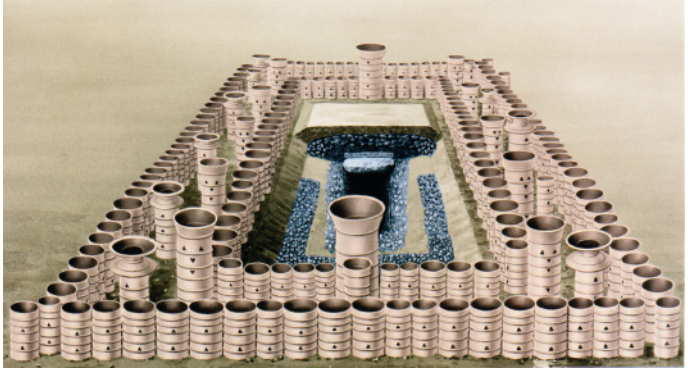


図４　メスリ山古墳（奈良県桜井市）の石室と埴輪列の復元（大阪府近つ飛鳥博物館　2016）

図５　五色塚古墳（兵庫県神戸市）の復元埴輪列（左下）

図６　今城塚古墳（大阪府高槻市）の復元埴輪列（下）

図８　小立古墳（奈良県桜井市）の儀仗形立物（左端）と円筒埴輪列（奈良県橿原考古学研究所附属考古博物館　2008）

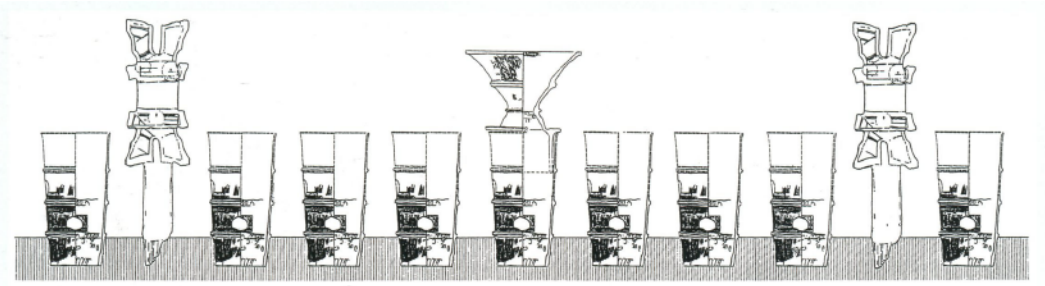


図９　小立古墳の儀仗形立物と円筒埴輪列の復元模式図（奈良県橿原考古学研究所附属考古博物館　2008）

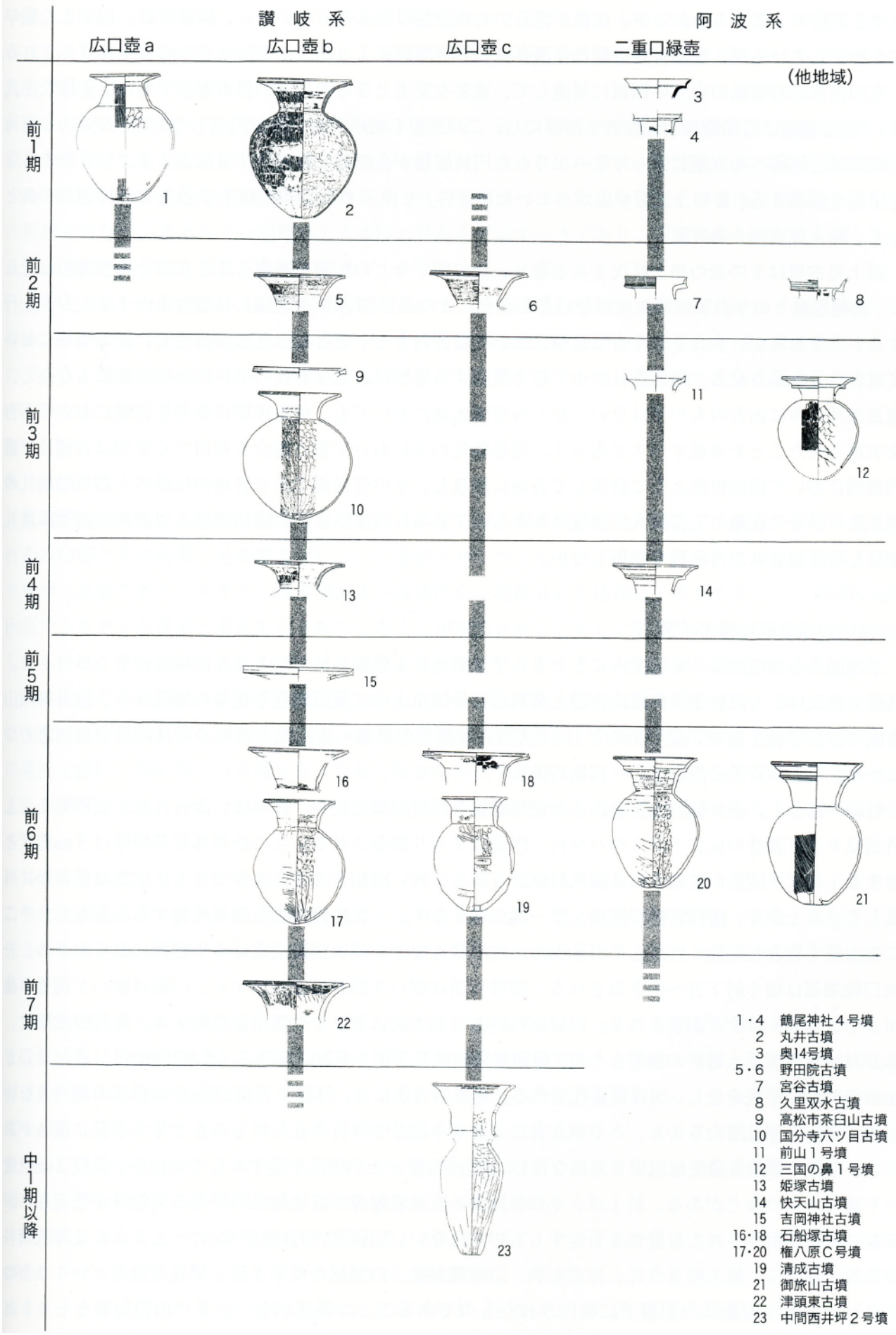
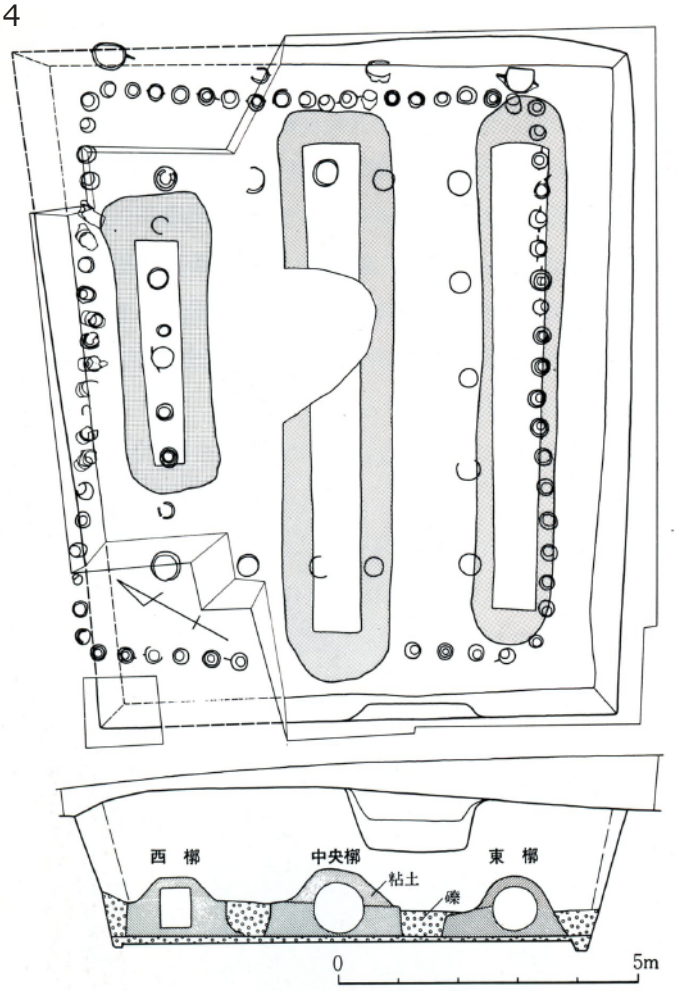


図 10　東四国型壺形埴輪の編年（蔵本 2004）



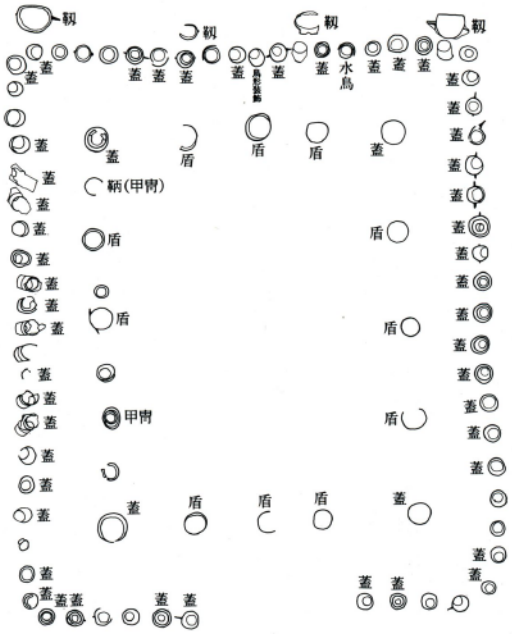
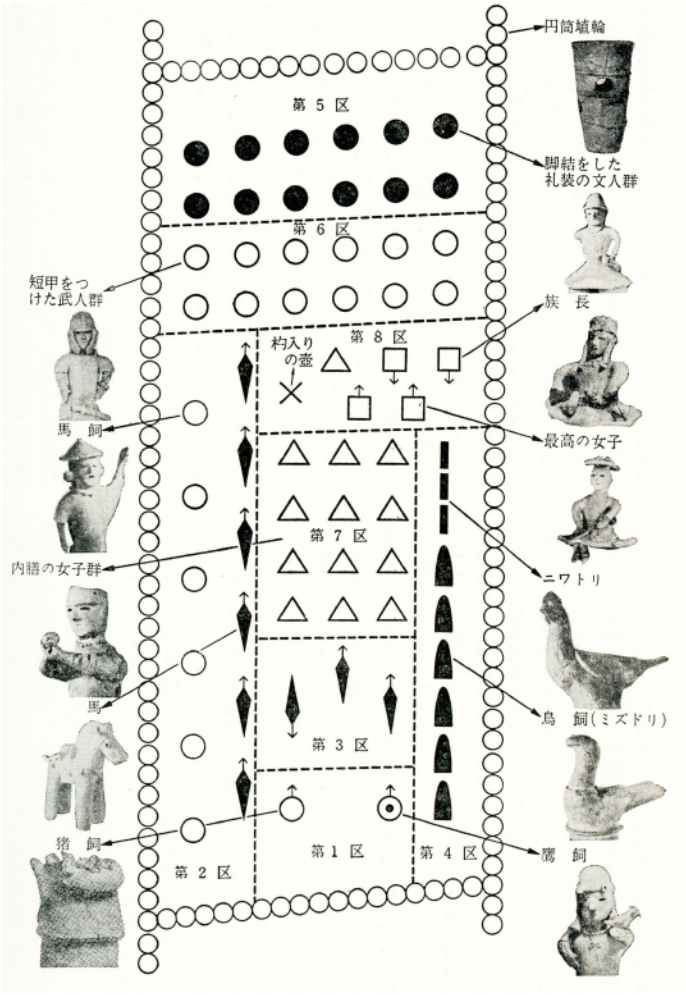


図 11　石山古墳（三重県上野市）の埋葬施設（左）と埴輪列の位置関係及び内容（右）

この外側に円筒埴輪列が存在するほか、図の空白部の中に家形埴輪が配置されていた。

（京都大学文学部博物館 1993 を改変）



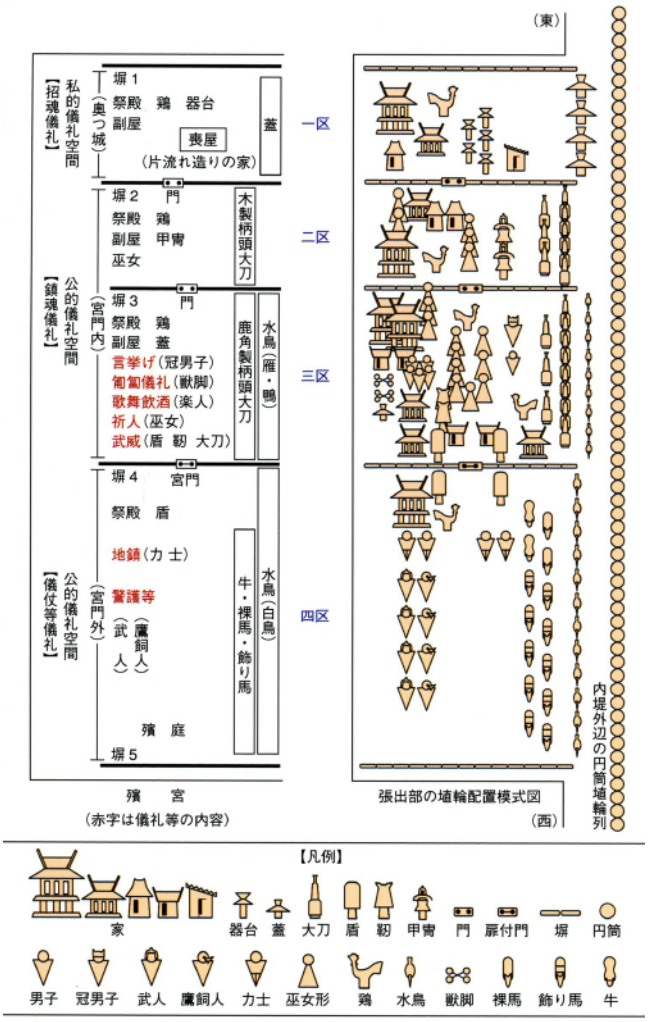


図 12　保渡田八幡塚古墳（群馬県高崎市）の埴輪列（水野 1971）

図 13　今城塚古墳（大阪府高槻市）の埴輪列（森田 2011）

図 14　塩谷５号墳（京都府船井郡丹波町）の巫女形埴輪（左　裏、右　表）（高橋 1996）

図 15　今城塚古墳（大阪府高槻市）の巫女形埴輪
（和歌山県立紀伊風土記の丘 2011）

図 16　飯塚（群馬県太田市）の挂甲を付けた武人埴輪（東京国立博物館蔵）
（高橋 1996）

図 17　宮山古墳
（奈良県御所市）の靫形埴輪
（奈良県橿原考古学研究所附属考古博物館　2008）

図 18　瀬戸ヶ谷古墳
（神奈川県横浜市）の靫形埴輪
（高橋 1996）